

2. 戦略ビジョン策定の視点

2. 戦略ビジョン策定の視点

1) 戦略ビジョンとは

○将来像（＝ビジョン）

- ・大宮駅周辺地域の将来目標となるまちの姿を描くもの

○戦略（＝考え方＋個別の取り組み）

- ・考え方：現状から将来像の具体化に至るまでの大きな方向性を示すもの
- ・個別の取り組み：考え方に基づいて将来像を実現するための具体的な手段や手法

○優先的に取り組むべきプロジェクト

- ・戦略の考え方の具体化に向けて先導的に着手し、波及的効果を生み出す各種の取り組み

○戦略ビジョンの推進方策

- ・民と官の協調により、戦略ビジョンをハードとソフトの両面から推進していくための方策

- ・「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」は、次世代を見据えた長期的な視点から、地域の「将来像」とそれを実現するための「戦略」を定めるものである。
- ・そして、戦略の考え方を具体化していくために、まちづくりに先導的かつ波及的効果を持つ取り組みを「優先的に取り組むべきプロジェクト」として抽出し、すぐにも出来ることから実行しようとするものである。
- ・また、戦略ビジョンの推進にあたり、地域のまちづくりに取り組んでいる市民団体や市民、事業者、行政など多様な主体が参画し、まちを動かし、経営していく仕組みづくりに向けて、推進方策の検討を行う。

2) 検討の視点

○大宮らしさを伸ばしながら、社会的要請や直面する課題に対応し、東日本の顔として都市間競争に勝ち残るため、

- ① 皆が共有できる将来の姿と、それに至るまでの道筋となる方向性を打ち出す。
- ② 方向性を念頭に置きつつ、戦略を立てる。
- ③ 「優先的に取り組むべきプロジェクト」の抽出を通じて、戦略に則ったアクションを速やかに起こす。

- ・さいたま市は政令指定都市であり、県庁所在地、業務核都市であることから、東日本の交流拠点として、今後もさらに発展を遂げていくことが期待されている。
- ・第五次首都圏計画では、さいたま市は首都圏の環状拠点都市群のひとつとされ、「浦和地区」「大宮・さいたま新都心地区」を中心に、内陸型の業務核都市としての育成・整備が位置づけられている。
- ・首都圏整備計画では、さいたま市を中心とする地域を「さいたま広域連携拠点」として位置づけ、広域行政機能や商業・交流機能等の集積を活かし、国際文化都市圏とすることとされている。
- ・大宮駅周辺地域はさいたま市の「顔」となる地域であり、その地域資源を最大限活用して潜在力を引き出し、地域力の向上を図ることは、当該地域やさいたま市だけに留まらず、これからの首都圏全体の持続的成長を牽引するためにも喫緊の課題である。またさいたま市が、今後予想される都市間競争に勝ち残り、東日本の顔としてその存在感を高めていく上でも必要である。
- ・大宮駅周辺地域のまちづくりを進めていくに当たっては、市の総合振興計画や都市計画マスタープランなどの計画との整合に配慮し、大宮駅東口都市再生プランなど地域の既往計画を整理しつつ、地域内やさいたま市の今日的な課題への対応はもちろんのこと、周辺地域や関連する国内外との関係を視野に入れて、変化し続ける社会的要請に応じた将来のあり方と、それを実現するための戦略を検討する必要がある。
- ・そして、喫緊の課題に対応するために、戦略に則ったアクションを速やかに起こす方法として、まちづくりに先導的かつ波及的効果を持つ取り組みを「優先的に取り組むべきプロジェクト」として抽出し、将来に向けて連鎖的な展開を図る。

■既往計画における大宮駅周辺地域の広域的位置づけ

○さいたま市は、「東日本の交流拠点都市」として東京を中心とする首都圏の中に位置づけられ、北関東や東日本との交通の要衝となっている。

- ・首都圏では、東京を中心とする放射状の軸が複数形成されており、この東京都心部への一極集中型の軸に対する負荷が大きいことから、放射方向の軸に加えて、環状軸の形成を図り、分散型ネットワーク構造に再編することが必要とされている。
- ・本市を貫く首都圏の放射方向の軸上では都市機能の高度化を進め、本市と東京都心部、本市と北関東、東北・北海道地方や上信越・北陸地方との連携を強化する。今後、北陸新幹線や東北新幹線の延伸により北陸や北海道とも近くなり、また、新潟を介して環日本海、ユーラシアの諸国との交易も期待される。
- ・環状軸上では、東京中心部から環状方向に位置する業務核都市などと連携促進する機能を有し、機能分散の受け皿として都市機能の集積と機能の高度化を誘導する。

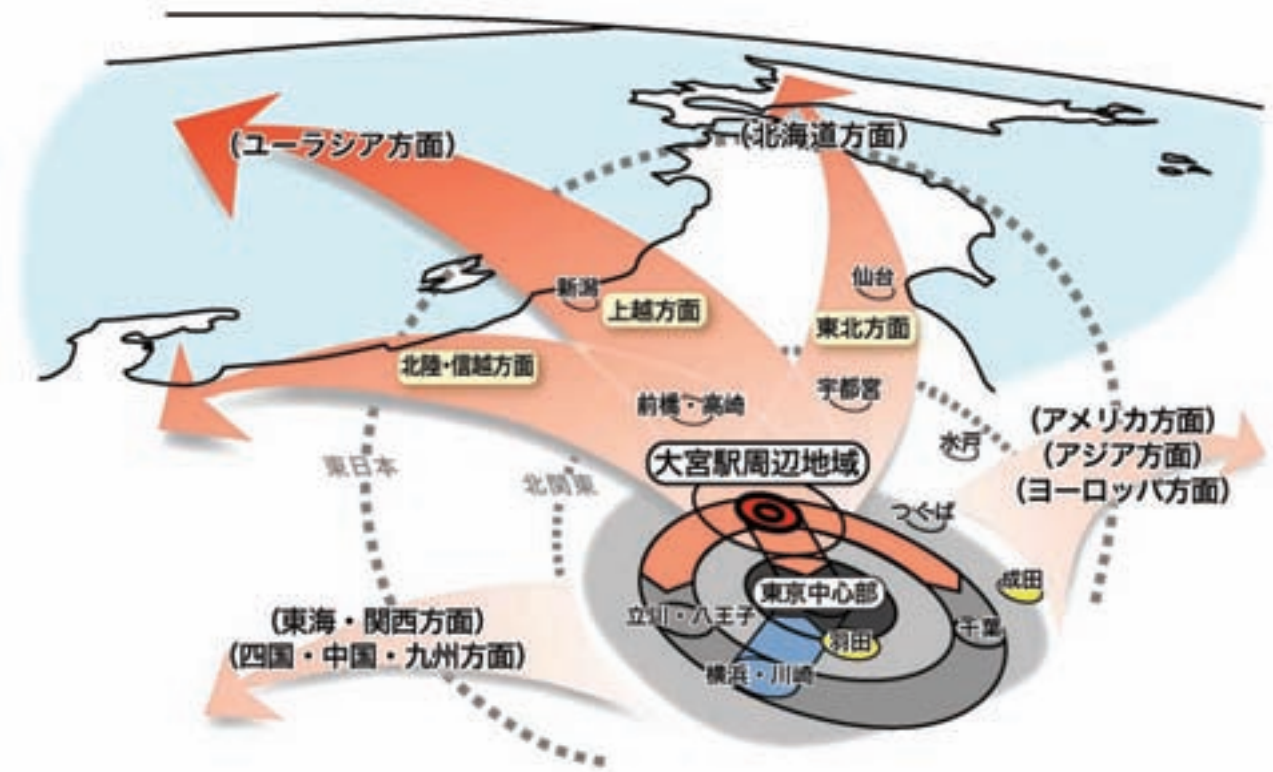


図 東日本におけるさいたま市・大宮駅周辺地域の位置づけ

○大宮駅周辺地域は、さいたま新都心周辺地区と一体的に、広域連携拠点都市であるさいたま市の都心に位置づけられている。

- ・さいたま市は、埼玉県の中核的な業務核都市として、県内や首都圏内外の各都市との相互連携・交流によって機能を分担し、補完し高め合う分散型ネットワーク構造を構成することが求められる都市である。
- ・大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区は、高次都市機能の集積により本市の都市活動の基幹的な役割を果たすとともに、業務核都市として首都機能の一翼を担う「都心」として位置づけられている。
- ・特に大宮駅周辺では、広域的な商業・業務機能や交流機能などの機能集積を進めていくものとされており^(※)、市内はもとより、県内や首都圏・北関東の諸都市も含めた連携・交流を見据えた都市機能の集積や骨格的な交通体系の形成などが求められる地域である。

※さいたま新都心周辺の広域行政機能や文化機能、交流機能などと連携を深めつつ、一体的な都心としての形成を進めていく。また、浦和駅周辺地区（行政・文化などの機能集積）とを結ぶ範囲は「高次複合ゾーン」として、多様な都市機能と共存しながら、良好な都心居住と質の高い都市景観を有する市街地の形成を図る。



■大宮駅周辺地域の直面する課題

○広域的な拠点都市にふさわしい都市空間や都市基盤の整備が遅れが目立ち、大宮の都市規模や交通結節点としてのポテンシャルを活かし切れていない。

- ・地域の中心に位置する大宮駅は、新幹線5路線、在来線等8路線が乗り入れ、1日あたりの乗降客数が65万人のターミナル駅となっており、国内各地域との連携・交流の優位性、成田空港や新潟空港等を介した海外との連携・交流の発展性において、高い潜在力を持つ。
- ・その一方で、地域内および周辺では、慢性的に渋滞が発生しているとともに、東口駅前等には細分化した敷地や老朽化した建築物が存在し、低・未利用地も点在している。



図 広域道路による他地域との連携状況



図 都市計画道路整備状況 (H22.3)



図 鉄道による他地域との連携状況

出典：「さいたま市総合振興計画『さいたま希望（ゆめ）のまちプラン』・基本計画〔改訂版〕平成18年1月〕に加筆

○社会環境や商業環境の変化に伴い、多様化する市民生活を支えるための「核」となる機能がまちなかに不足している。

- ・大宮駅周辺地域全体で見ると人口は増加傾向にあるが、駅から少し離れた場所で人口が増加する反面、駅直近では人口が減少している。住民の高齢化が進む一方で、新住民が増加し、生活ニーズが多様化していることが予想される。
- ・また、大宮駅周辺地域は依然として県内・市内一の商業集積を維持しているが、浦和や越谷、市内各地域へ新たな大規模商業施設が進出しており、また、駅ナカ商業施設の開設、広域的な商圈の変化など、「商都」大宮をとりまく社会環境、商業環境は大きく変化してきている。

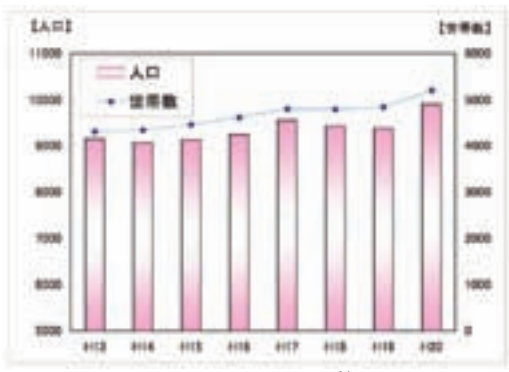


図 地区内人口の推移
出典：国勢調査データより作成



図 町丁目別人口増減率(H22/H17)
出典：住民基本台帳(H17年3月、H22年3月)より作成

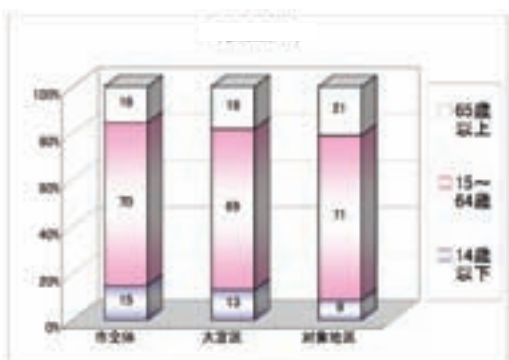


図 年齢構成(H17)
出典：国勢調査データより作成

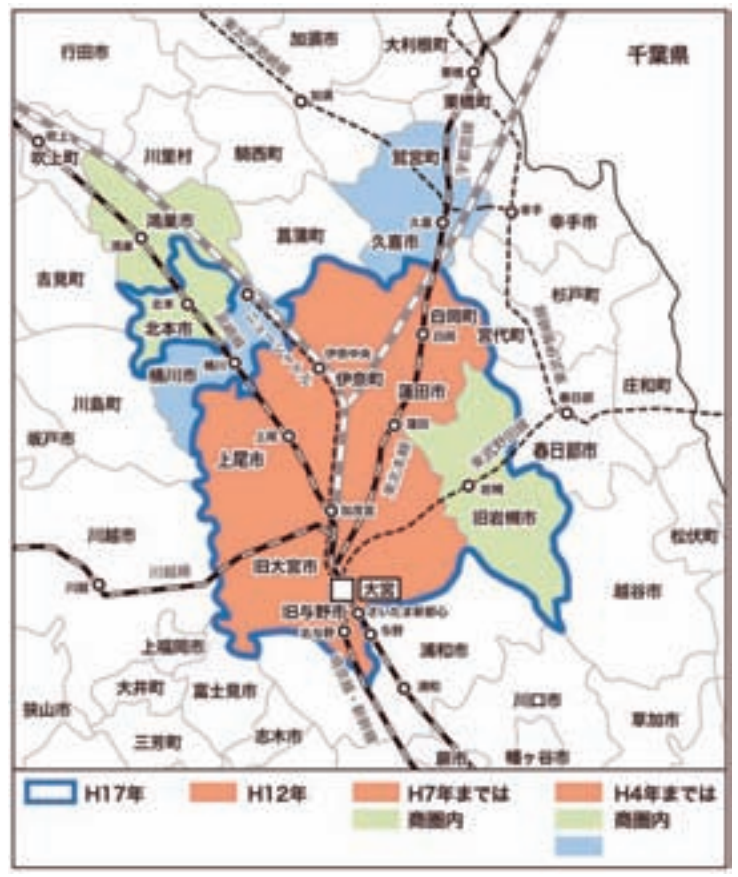


図 商業環境の変化(旧大宮商圈の推移)
出典：H17年度彩の国消費者動向調査(埼玉県)より作成

○駅から当地域、周辺に至る多様な地域資源が活かしきれておらず、「大宮らしさ」を象徴する新たな魅力や価値を創出していく必要がある。

- ・大宮駅周辺地域とその周辺には、武蔵国一宮である氷川神社、氷川参道を始め、中山道などの歴史資源、大宮公園や見沼田圃等の広域的な自然資源、鉄道博物館や漫画会館、盆栽、サッカー、地域の祭り等の文化資源など、大宮の個性と広域的な価値を併せ持つ地域資源が存在する。また、駅周辺には多くの小売店や飲食店が集積し、「商都」のにぎわいを形成している。
- ・一方で、近年、当地域内においては、これらの地域資源や既存の商業集積に匹敵する新たな魅力は創出されておらず、地域資源との連携も必ずしも密接ではない。



図 大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区における機能集積の現況

○多数のまちづくり団体が活動し、教育施設の集積などが見られる大宮駅周辺地域では、民間の力を、まちづくりの推進にさらに活かしていく必要がある。

- ・当地域には、様々な目的意識をもって活動する多数のまちづくり団体があるが、その一方で、各種のまちづくり事業の本格的な進捗は見られない。
- ・また、当地域には大学、専門学校、予備校など、多数の教育施設が集積（大学院大学1校、大学1校、短期大学1校、高等学校6校、専門学校11校、予備校20校）しているが、その特色がまちづくりに活かされていない。
- ・まちづくり団体や教育施設の個別の活動だけでなく、民間と民間、民間と行政の連携を推進し、地域全体として民間のパワーを結集して、これら人的・知的な地域資源をまちづくりに積極的に活かしていく必要がある。

大宮駅周辺地域で活動するまちづくり団体 (順不同)
・大宮駅東口駅前南地区まちづくり協議会
・大門町2丁目中地区市街地再開発準備組合
・大宮東口駅前街づくり会
・大宮駅東口北地区まちづくり会 (ENZA)
・大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会
・大宮東口はっするねっと
・東口を考える会
・大宮駅東口北部地区商店街サミット
・氷川の杜うるおいのあるまちづくり推進協議会
・大宮東口商店街連絡協議会
・宮町5丁目自治会まちづくり部会
・大宮駅東口駅前地区合同協議会
・大宮南銀座再生委員会
・大宮駅西口タウン会議
・一般社団法人大宮駅東口協議会 (OEC)

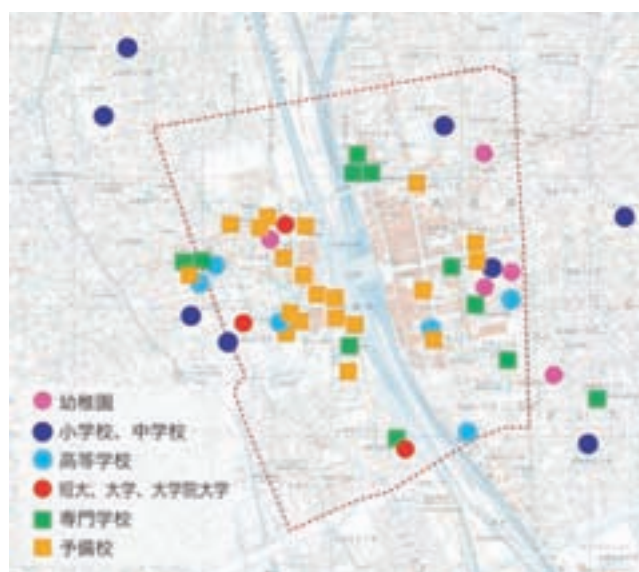


図 大宮駅周辺地域の教育施設分布状況

出典：第3回大宮の未来を考えるワークショップ 資料

■変化し続ける社会情勢への対応

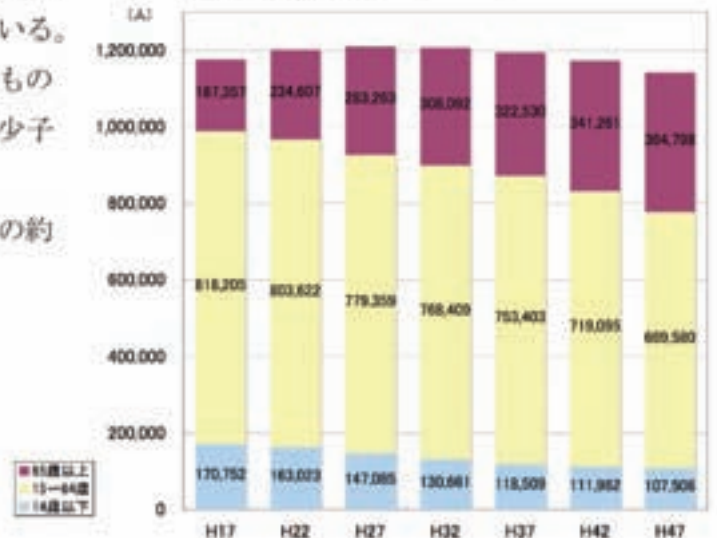
①地球環境や社会環境の変化に対応した持続的な発展

○少子化や高齢人口の増大などに起因した社会活力の低下を食い止めるとともに、居住者や利用者の属性やニーズの変化に対応した暮らしやすく、利用しやすく、安心・安全なまちを構築する。

○地球規模の緊急の課題である温暖化の抑制や地域のヒートアイランド現象の防止など、広域的な環境問題の解決と快適な都市環境の創造を一体的に捉え、環境と社会の両面から持続可能な社会を構築するとともに、地域固有の生態系の保全・回復などを通じて、緑豊かな潤いある都市空間の形成を図る。

- ・さいたま市の将来人口は、平成27年までは微増傾向をたどり、以降は減少すると予測されている。
- ・年齢別に見ると、65歳以上は年々増加するものの、64歳以下は減少の一途を辿っており、少子高齢化が進行する。
- ・地域内の高齢化率は約21%であり、市全体の約16%に比べて高くなっている。

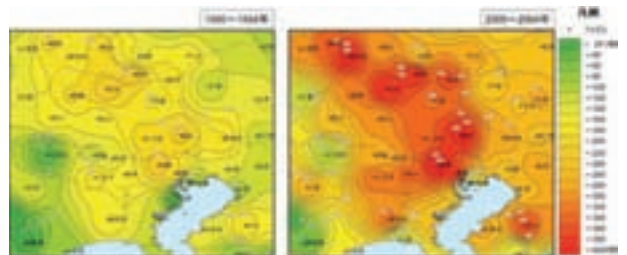
■さいたま市の将来推計人口（H17-H47）



(出典「日本の市区町村別将来推計人口」平成20年12月推計
(国立社会保障・人口問題研究所)より作成)

- ・都市部の気温が郊外部に比べて異常に高くなるヒートアイランド現象は、空調設備などの人工排熱の増加や舗装などによる水の蒸発・蒸散量の減少などが原因とされており、屋外環境の悪化や熱中症の発生、集中豪雨の発生などの悪影響をもたらしている。
- ・地球規模の課題に対応しつつ、都心の貴重な緑資源である氷川神社・氷川参道・大宮公園の緑を守り、育てるとともに、見沼田圃を活かした緑の保全と活用が求められる。

■ヒートアイランド現象



関東地方における30℃を超えた延べ時間数の広がり
(5年間の年間平均時間数)

(出典 環境省資料)

②グローバル社会にふさわしい都心活動と都心空間の形成

○首都圏の交通の要衝である強みを活かして、成田、羽田はもとより、日本海や東北方面、将来的には環日本海諸都市との結びつきを強め、広域的な拠点都市として都市機能を強化する。
 ○世界の中で存在感を発揮する都市として、新たなビジネスや観光の展開を図ると同時に、質の高い都市空間を形成していく。

- ・日本の首都中枢機能を有する首都圏は、世界の経済や社会をリードする役割を担っている。首都圏の業務核都市さいたま市の都心である大宮駅周辺地域は、首都圏の交通の要衝であり、成田国際空港やその他の国際空港・港湾を有する国内諸都市と鉄道等で結ばれている。
- ・今後、我が国が首都圏の国際競争力の強化を図っていく中で、大宮駅周辺地域はその立地上の強みを活かして、国内外の諸都市との結びつきを強め、グローバル社会にふさわしい機能と空間を備えた広域的な拠点都市として、新たなビジネスや観光の展開を図ることが期待される。
- ・さいたま市では、平成19年3月に「さいたま市観光振興ビジョン」を策定しており、ここで定められる方針に沿って、本地域でも国内はもとより海外からの観光客の誘致や観光振興に取り組んでいくものとする。

首都圏広域地方計画
 ～世界の経済・社会をリードする風格ある圏域づくり～

■首都圏の果たすべき役割

1. 東アジア・世界のリーディング圏域
2. 日本の首都中枢機能を有する圏域
3. 約4,200万人の多様な人々が暮らし、働く場

■目指すべき方向

方針1 日本全体をけん引する首都圏の国際競争力の強化
 方針2 人口約4,200万人が暮らしやすく、美しい地域の実現
 方針3 安全で安心な生活が保障される災害に強い圏域の実現
 方針4 良好な環境の保全・創出
 方針5 多様な主体の交流・連携により活発な圏域の実現

首都圏広域地方計画(平成21年8月)の概要
 出典：国土交通省HP

【観光の将来像】

訪れたいまち・招きたいまち さいたま
 やすらぎとにぎわい、個性的な文化が共存し、多彩な人々が集い交流するまち

基本方針1
 さいたま市ならではの観光の魅力づくりとイメージアップ

基本方針2
 観光振興に係わる多面的な連携システムづくり

基本方針3
 来訪者受入れ基盤の整備

さいたま市の観光の将来像と観光振興の基本方針
 出典：さいたま市観光振興ビジョン（平成19年3月）

③広域交通の拠点性の向上と地域内の快適な移動環境の実現

- 広域的な都市機能を支えるため、新幹線や高速道路、地域間の連携を支える鉄道や幹線道路など、広域から地域へのアクセス性を向上する。
- 地域内の交通渋滞を緩和し、人が快適に移動できるように、多様な交通手段の整備や活用、運営を組み合わせた総合的な交通戦略を構築する。

- ・通過交通を適切に処理し、広域との交流を高めるための道路ネットワークの構築、都心間の連携強化に資する道路ネットワーク、地域間の連携強化に資する道路ネットワークを構築するとともに、公共交通ネットワークを形成し、地域内の移動を支える。

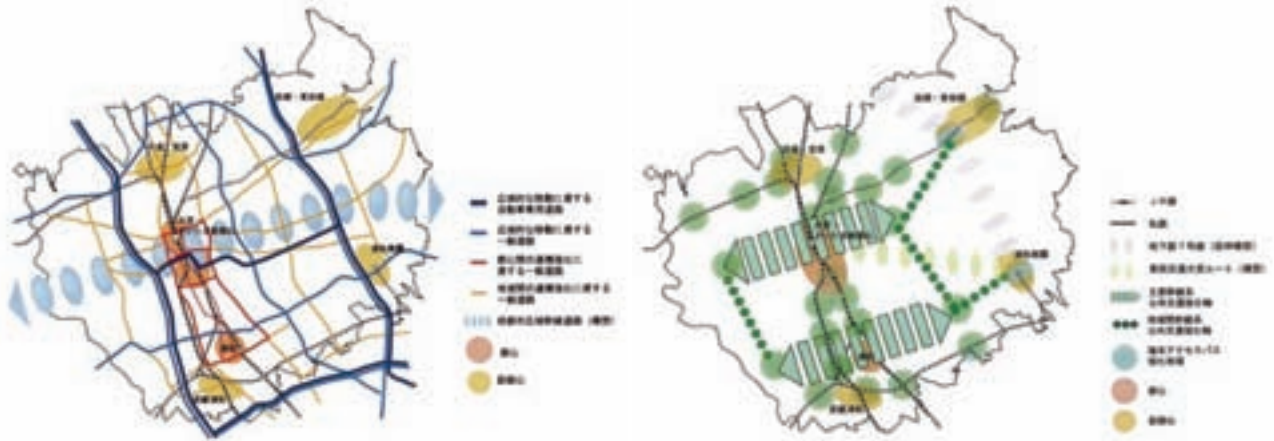


図 さいたま市の将来交通ネットワークの全体像

出典：さいたま SMART プラン（平成 18 年改訂版）

- ・さいたま SMART プランでは、「都心地区交通計画の基本方針」として、①都市の顔にふさわしい駅周辺の都市交通基盤を形成する、②都心地区を通過する交通と都心に集まる交通を分離する、③空間の棲み分けや時間の使い方によるマネジメントを実施する、④都心地区全体としての交通結節性を高めるとされている。
- ・これを前提に、大宮駅周辺地域の交通について検討を行う。

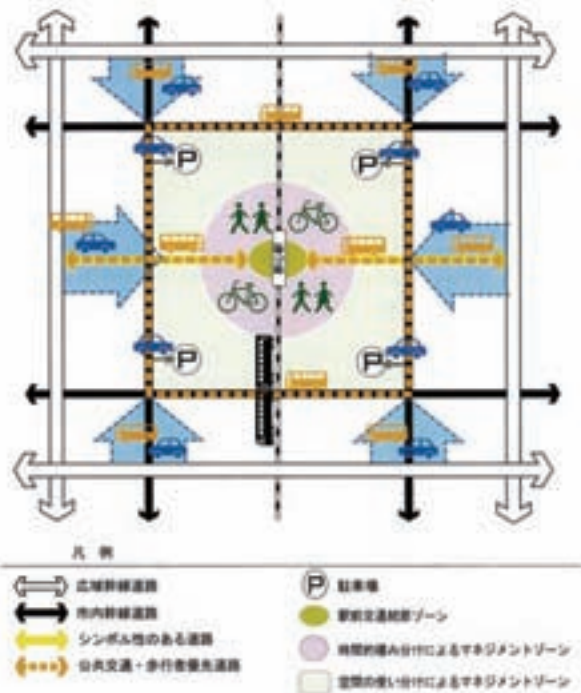


図 都心地区周辺交通の考え方

出典：さいたま SMART プラン（平成 18 年改訂版）